

# レジオネラ症とその予防対策

— 徹底した衛生管理で防ぐことができます —

レジオネラ属菌による感染症が発生しています。  
入浴施設の衛生管理が悪く、事故が発生した場合、  
管理責任を問われることがあります。  
入浴施設の衛生管理を徹底し、レジオネラ症の発生  
を防ぎましょう。



## レジオネラ症とは？

レジオネラ症は、レジオネラ属菌が原因で感染する病気です。

- ① レジオネラ症は、「レジオネラ肺炎」と「ポンティアック熱」の2つに分けられます。レジオネラ肺炎は、日を追って重くなり、発病後1週間くらいで死亡する場合があります。
- ② レジオネラ肺炎は、健康な人でもかかりますが、乳幼児や高齢者、病人など抵抗力が低下している人などがかかりやすいといわれています。
- ③ レジオネラ属菌に汚染された浴槽水のエアロソール（目に見えない微小な水滴）を吸ったことにより感染した事例が多く報告されています。

## レ ジ オ ネ ラ 症

### レジオネラ肺炎

#### ○主な症状

高熱、悪寒、筋肉痛、呼吸困難  
全身倦怠感、下痢、意識障害

#### ○特徴

急激に重症になり、死亡する場合  
もある。

### ポンティアック熱

#### ○主な症状

発熱、寒気、筋肉痛  
(インフルエンザに似た症状で、  
肺炎にならない)

#### ○特徴

一般に軽症で、数日で治ることが  
多い。

## レジオネラ属菌とは？

レジオネラ属菌は、土壌や河川、湖沼（淡水）などの自然環境に生息しています。一般にその菌数は少ないと考えられます。

お風呂の湯など20℃以上の人工環境で、アメーバなどの原生動物に寄生し、増殖することができます。

## 入浴施設の衛生管理のポイントは？

入浴施設を安心して利用できるよう、主に次の点に注意して衛生管理を徹底しましょう。

重点項目	実施内容	記録書
1 浴槽水の完全換水 (浴槽の湯をすべて新たな湯に入れ替えること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、毎日</li> <li>・連日使用型循環浴槽水は、1週間に1回以上</li> <li>・気泡発生装置や打たせ湯などによりエアロソルが発生する浴槽水には、連日使用型循環浴槽水を使用しないこと。</li> </ul>	<p>○左記の重点項目については、管理計画をつくって、実施し、その記録をつけましょう。</p> <p>○記録した書類は、3年間保存しましょう。</p>
2 浴槽などの清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、毎日</li> <li>・連日使用型循環浴槽水を使用している浴槽は、1週間に1回以上</li> </ul>	
3 循環ろ過装置などの消毒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環ろ過装置(毎日完全換水型を含む)、循環配管などは、1週間に1回以上</li> </ul>	
4 浴槽水の遊離残留塩素濃度の保持、測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浴槽水には、塩素を注入のこと。</li> <li>・浴槽水中の遊離残留塩素は、入浴時間中は、0.2～1.0 ミリグラム/リットルに保つこと。</li> <li>・遊離残留塩素濃度は、定期的に測定すること。</li> </ul>	
5 レジオネラ属菌の自主検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、年1回以上</li> <li>・連日使用型循環浴槽水は、6か月に1回以上</li> <li>・浴槽水の消毒をオゾン、紫外線殺菌である場合は、3か月に1回以上</li> </ul>	

注) 連日使用型循環浴槽水とは、24時間以上、浴槽の湯をすべて新たな湯に入れ替えなくて、循環ろ過している浴槽水をいう。

## レジオネラ属菌が検出された場合には？

- ① レジオネラ属菌が検出された浴槽の使用をすみやかに中止し、浴槽やろ過装置などの清掃、消毒を行うこと。(必要に応じて、ろ過装置のろ材の交換なども)
- ② 浴槽の清掃、消毒後に、レジオネラ属菌の自主検査を行い、不検出(陰性)であることを確認すること。
- ③ 浴槽水中の遊離残留塩素は、入浴時間中0.2～1.0 ミリグラム/リットルに保つこと。

## 入浴者への注意点は？

入浴者に対しては、次の事項について、注意書きなどで汚染防止のために呼びかけましょう。

- ① 体をしっかり洗ってから入浴すること。
- ② 露天風呂では、体を洗わないこと。

